

II 事業報告

1. 看護生涯学習専門部会

1-1)-①

事業名	公開講座開催事業					
対 象	地域住民					
事業組織	川原 瑞代、大館 真晴、甲斐 鈴恵					
事業計画	目的： 大学の有する知的財産、人的資源等を広く地域社会に開放し、社会における大学の使命を果たす。					
	実施内容： 本学教員や各分野で活動している方を講師に、本学の独自開催や他機関との合同開催などの方法により、本学又は県内各地で公開講座を開催する。					
実施状況及び結果	1. 開催方法					
	<p>①平成 25 年度に実施した、県内市町村の公開講座に関するニーズ調査の結果により、平成 27 年度に本学との共同開催を希望した市町と調整を図りながら、県民ニーズに合った公開講座を実施した（三股町、高鍋町）。</p> <p>②「文化に親しむ講座」は、引き続き、県立図書館、宮崎県記紀編さん記念事業推進室との共催を継続し、宮崎市内で 5 回、宮崎市以外の地域で 2 回の公開講座を開催した。</p> <p>③本学ホームページ、宮崎県ホームページ、ポスター、地元紙等で広報を行った。</p>					
	2. 開催実績（表 1）					
表 1 一般公開講座実績						
	日 時	講座名	講 師	内 容	場 所	参加人数
1	8月2日(日) 18:00-20:00	三股町スポーツ特別講演会&宮崎県立看護大学公開講座	大畑好美 (公認スポーツ栄養士、管理栄養士) 串間敦郎	ジュニアアスリートのための食事	三股町	250名
2	10月29(木) 19:30-21:00	学校保健委員会&宮崎県立看護大学公開講座	花野典子(宮崎県立看護大学名誉教授)	子育てに関する講演会「子どもの育ちと家族の絆」	高鍋町	211名 除スタッフ
1	9月5日(土) 13:00-16:00	神話のふるさと県民大学宮崎の文化に親しむ	上野誠 伊藤一彦 関知子	日本人にとって聖なるものとは何か～神と自然の古代学～	県立図書館	154名
2	9月12日(土) 13:00-16:00		大館真晴 平藤喜久子	【対談】世界の神話と日向神話		107名
3	9月19日(土) 14:00-16:00		井上さやか	日向と大和	カルチャープラザのべおか	94名
4	9月26日(土) 13:00-16:00		伊藤一彦 小島ゆかり	【対談】若山牧水の魅力	県立図書館	136名
特別講演	11月21日(土) 18:30-20:30		横山美和 今村さつき	おはなしとおんがくの森～日向神話を題材に～	メディキットイベントホール	96名
参加者の合計は 1048 名であった。						

	<p>3. 受講後の感想など</p> <p>1) 一般公開講座</p> <p>①三股町スポーツ特別講演会 第一線で活躍の専門家の講演であり、スポーツ少年団員や部活生、保護者、指導者等の多くの参加があった。質疑応答も活発であり大変わかり易い内容で好評であった。</p> <p>②子育てに関する講演会 高鍋町小中学校にて、感想をとりまとめて頂いた。「当たり前だと思っていたことの理屈が分かった」「今からでも遅くないので、子どもに実践してみたい」などの多くの感想があった。参加者も150名の予定であったが、スタッフを除き211名の参加があり、とても好評であった。</p> <p>2) 文化に親しむ講座 文化に親しむ講座への参加者は合計587名であった（第1回、第2回は途中応募を締め切ることとなった）。次年度はより多くの参加者を得るため、会場や設営について検討を行いたい。また、各回の講座で行ったアンケート結果においても、7割以上の参加者が「たいへんよかった」もしくは「よかった」と回答しており、非常に好評であった。</p> <p>学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、健康講座・文化講座を開催してきたが、文化講座については、宮崎県立図書館との共同実施が定着したため、来年度以降は別企画とする。 ・宮崎市内だけでなく、平成25年度に実施した県下の市町村のニーズ調査の結果より三股町の健康講座（8月実施）、高鍋町の教育講座（10月予定）を合同開催し、受講機会の少ない地域へも積極的に向かい出した。プログラムでは、県内外の著名な講師を招聘し、関心のあるテーマを盛り込むなどの工夫を凝らした。来場者の評価はどの回も好評であり、ニーズに即したプログラムであると評価できた。このように、ニーズをふまえた内容や方法で実施したことが来場者の増加につながっていると評価できる。
<p>次年度 計画</p>	<p>平成27年度に改めて県内のニーズ調査を実施し、その結果より、今後も、宮崎市内外での開催などさらに広く県民への周知を図り、住民の健康をめざし、実際の生活に必要なセルフケア能力の向上や教養・文化の向上につながる公開講座を開催することを目的とし、公開講座を開催する。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>甲斐 鈴恵</p>

1-1)-②

事業名	母親の育児力形成支援事業 ー親子で楽しく「輪ッハッハ!」教室ー
対 象	未就学児を持つ親子
事業組織	宮崎県立看護大学： 松本 憲子、壹岐 さより 宮崎市保健所： 母子保健担当保健師
事業計画	<p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> 子ども、家庭及び地域社会の相互の連携を図ることにより、母親の育児不安等に関する早期対応を可能にし、地域社会における子育て支援の基盤づくり 学生の乳幼児の発育発達及び、子育てについての理解の促進 宮崎県全体の母親の育児力の向上 <p>実施内容：</p> <p>事業実施計画（報告）平成 27 年度 <2 年目></p> <ol style="list-style-type: none"> 子育て教室の開催（本学・日南・五ヶ瀬） <ul style="list-style-type: none"> 子育て相談（面接・24 時間メール相談） 児の発育発達評価・相談（身長、体重測定等） ママの広場（母親交流、リラックスタイム、おやつ作り等） 遊びの広場（母と子のふれあい 読み聞かせ等） 学生による健康教育 個別カウンセリング（輪ッハッハ!カフェ♪）の開催 母親学級の開催 <ul style="list-style-type: none"> 妊娠期からのからだづくり、こころづくり 赤ちゃんのいる生活のイメージづくり 個別相談
実施状況及び結果	<p>子育て教室は、6 月から月に 2 回の割合で開催し、毎回 15 組程度の親子が参加した。教室では、育児力尺度により、母親の育児力を把握したうえで、母親の育児力形成を目指してかわりを行った。また、母親のストレスを唾液アミラーゼにより評価し、ストレスが高いと評価された母親へは、リラクゼーションや癒しのケアを提供した。</p> <p>また、学生による健康教育やおやつ作りの体験を行った。</p> <p>また、日南市と五ヶ瀬町で開催した子育て教室には、日南市は 98 名、五ヶ瀬町では 30 名の参加があった。日南市では市が作成した子どもの病気の対応マニュアルを配布し、自宅に対応できることや夜間救急の電話相談について周知を図った。両地区で母親の育児力を調査したところ、五ヶ瀬町では地域の支援や夫婦関係が良好である傾向にあり、母親の育児力は比較的よい状態であることがわかった。調査を行った結果については、気になるケースを含めて担当の保健師に情報を提供し、気になるケースは継続支援を依頼した。</p> <p>宮崎市在住の母子については、宮崎市での子どもの要支援教室で、母親の支援に課題が残る個別ケースのフォローを依頼され継続支援を行ったが、この流れをシステム化するには至らなかった。</p> <p>母親学級は、計 8 回開催し毎回 2～4 名の参加があった。多くは初産婦であり、少人数であったため、じっくりと話を聞くことができた。妊娠期の過ごし方や分娩に対して不安なことについて参加者に聞き、子育て教室の紹介と妊娠期と子育てのつながりについて毎回話を行った。参加者から「初めて聞くことばかりでよかった」という声が多く聞かれた。</p> <p>子育て教室は、本年度が 10 年目であり、活動の節目として、参加された母親の声、教室スタッフの思い、10 年間の研究成果をまとめ冊子を作成、関係機関へ配布した。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：子育て教室 妊婦教室</p> <p>人 数： 実人数（ 24 ）人 延人数（ 46 ）人</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>妊婦及び子育て期にある母親の支援を行うことができた。支援の充実を図るために、育児力尺度を活用し、育児力形成支援を行った。 実習生が子育て教室に参加し、健康教育を行うことで、母親の行動変容を促す動機づけができた。 過去に教室に参加した母親の近況と子育て教室についての声を集め、教室スタッフの思いと過去の研究成果を冊子としてまとめ、関係機関に配布することができた。</p>
<p>次年度 計画</p>	
<p>記載 責任者</p>	<p>壹岐さより 松本憲子</p>

1-1)-③

事業名	宮崎における子育て支援事業
対 象	宮崎県内の子育て中の子どもとその保護者
事業組織	宮崎県立看護大学の家族看護学Ⅰ（小児）を担当する教員 片野坂 千鶴子 代表（NPO法人みやざき子ども文化センター） 甲斐 鈴恵 代表（民間団体：グッドトイみやざき）
事業計画	<p>目的： 子育てに不安を感じることなく、楽しんで子育てができるよう、場（おもちゃ広場）を提供し、助言・支援を行い、そこに携わる専門職者（看護職者・保育士・おもちゃコンサルタントなど）相互の連携を深める。</p> <p>実施内容： 1. 大学内および県内各地において、大学所有のおもちゃを使って「おもちゃ広場」を開催し、子育て支援活動を行う。 2. きよたけ児童文化センターにおいて、常設のおもちゃ広場を開催し、週1回（木曜日）は大学の教員、および、おもちゃコンサルタントによる子育て相談・遊び方の支援を行う。 3. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場）に参加し定期的に子育て支援検討会を行い、行政や民間団体が行っている子育て支援の実態を情報収集し、今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考える。 4. 子育て支援者の質向上の講習会を行う。</p>
実施状況及び結果	<p>1. 大学では6月と9月の2回、計5日間のおもちゃ広場を開設し、子ども272名、大人270名の参加があった。子どもがおもちゃで夢中に遊ぶ姿から「子どもの喜ぶおもちゃがわかった」「子育ての悩みは自分だけじゃないとわかった」などの感想もあった。また、おもちゃ広場と同時開催で、宮崎県産の木工キットを用いた手作りおもちゃも行った。親子で作る楽しみや完成した作品を大切に育む様子がみられた。「移動おもちゃ広場」は、今年度は要請がなかった。今年度は、未就学児の親子のみでなく学童期も対象に活動を広げ、子育て相談、母親相互の情報交換の場などの子育て支援活動ができ好評であった。「もくもくパーク夏祭り【8月】（9日間：14000名）」「子育てのわっフェスティバル【11月】（1日間：1000名）」などにも参加した。</p> <p>2. きよたけ児童文化センターにおいて、常設のおもちゃ広場を開催し、週1回（木）は大学の教員らによる子育て相談を行い、4～18組の親子の参加があった。新規登録96組、延べ276組、611名の親子の参加（1月14日経過途中）があり、親子の遊び・子育ての相談などの支援を行った。</p> <p>3. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場「ネットワーク形成事業」、「平成27年度勉強会・講演会」）に参加し、定期的に子育て支援検討会を行い、行政や民間団体が行っている子育て支援の実態を情報収集した。今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考えるため、「未来みやざき応援フェスティバル2015」に企画から参加し、実行委員会からの要請で11月15日、16日はおもちゃ広場を開催し、約4,200名の親子が来場し、おもちゃ遊びを楽しめる場を提供した。大学・専門学校との情報交換会には、シンポジストとして参加した。80名の参加があり、学校と民間団体との意見交換が行われ、今後の子育て支援活動の架け橋の場となった。</p> <p>4. 乳幼児期を育児中の保護者向けに、「乳幼児期から育む、折れないこころ」をテーマとした講演会を行い、20名の保護者参加、9名の託児を行った。宮崎地域振興部地域コミュニティ課との共催。参加者の講演内容の感想では、「内容もわかりやすく理解できた」、「今後役に立てられる」という意見が大半を占めた。「子どもと向き合って、しか</p>

	<p>るばかりでなく、受容して、巻き込むことの大切さがよく分かった。自己肯定感を持たせられるように、親子でコミュニケーションをとっていきたい」など、講演を受けて前向きな感想もあった。総合的に満足度の高い講演会であった。</p>
	<p>学生の参加状況 活動内容：おもちゃ広場での子どもの見守り・遊び支援、手作りコーナーの補助 人数： 実人数（ 38 ）人 延人数（ 44 ）人</p>
評価 改善点	<p>各市町村で子育て支援活動の催し物が開催されていることから、今年度は宮崎県内各地の「おもちゃ広場」の要望はなかった。今後、各地域から要望があれば実施する。看護大学内、宮崎市のおもちゃ広場の参加者からは、「育児をしている保護者の心の支えになるので、もっと多くの人に知らせたい」「今度はいつか」などとの意見が聞かれ、地域住民からのニーズが高いことがうかがえた。より多くの方々が開催日時・場所の情報を得やすいように、広報活動として、大学ホームページの活用やチラシ配布場所の拡大、新聞の掲載、育児情報誌、TV放送などを行った。学童期が参加できる子育て支援のニーズも高いため、今後も継続して行っていく。</p> <p>活動内容のニーズが高く、今後も継続して行うために、実施する支援者のマンパワーの育成の必要性が望まれる。</p>
次年度 計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学内、および県内各地において「おもちゃ広場」を開催し、木育活動も取り入れた子育て支援活動（乳幼児・学童）を行う。 2. きよたけ児童文化センターにおける常設の子育て支援活動は、施設へ移行準備として、おもちゃ広場は月 1 回開催し大学の教員による子育て相談として運営する。また、保護者対象、および、子育て支援者対象の研修会・講演会を行う。 3. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場）に参加し、行政や民間団体と連携しながら、今求められている宮崎県内における子育て支援を実施する。
記載 責任者	甲斐 鈴恵

1-1)-④

事業名	宮崎県、県南地区における精神障がい者への理解促進事業
対 象	宮崎県、県南地区で精神障がい者の地域生活を直接支えている人々
事業組織	川村道子 (宮崎県立看護大学 准教授) 福浦善友 (宮崎県立看護大学 助教) 赤星誠 (宮崎県立看護大学 教授)
事業計画	<p>目的： 県南地区の精神障がい者の支え手となる方々を対象に、ニーズに見合った研修会を企画開催し、精神障がい者への理解促進を図る。</p> <p>実施内容： ①平成 27 年 6 月 27 日～28 日 日本精神保健看護学会 第 25 回学術集会にて発表 ②平成 27 年 9 月 18 日～19 日 第 46 回 日本看護学会－精神看護－学術集会にて発表 ③平成 27 年 1 月 27 日～1 月 29 日 第 35 回日本社会精神医学会にて発表 ④平成 28 年 3 月 17 日 串間市・地域生活支援センター・ウイングにて「精神障がい者の理解促進」のための研修会開催 ⑤これまでの活動を総括し、「精神障がい者への理解促進に有効な研修会プログラム開発」のテーマで社会化する。</p>
実施状況及び結果	<p>① 『精神障がい者の地域生活を支える人々への研修プログラムの検討～行政職を対象にした研修会を開催して～』の演題で発表し、他県のこころの医療センターの看護局長の方から、研修会開催までの経緯の詳細と実際のプログラム内容を尋ねられた。県民に広く精神障がい者の理解を求めたいという同じ課題を持っておられ、取り組みの詳細をお伝えした。我々の取り組みを参考にして当該県でも実施できそうだという感想を頂いた。</p> <p>② 訪問で当事者の生活を支えるヘルパー、介護士、ケアマネジャーを対象とした研修会の評価を行い、プログラムの開発に関する課題を探って発表した。宮崎県、県南地区の実態を分析して作成されたプログラムとその評価を紹介したが、他県の方より当該県でも紹介されたプログラムが活用できるのではないかと、あるいは、訪問で当事者を支える方々へのプログラムとしてだけではなく、就労を支援する企業の方々への研修会でも活用できるのではないかとという感想があった。事業主の方々からは、「精神障がい者は前触れもなく仕事を休む」「調子を崩して仕事が長続きしない」など雇用しにくいという意見を多く聞くが、どのような出来事のあとに調子を崩すのか、あるいは精神症状が活発になるのか、などその人それぞれで調子を崩す前の出来事には共通の性質があるという見方ができれば支援の方法が見えてくる、という内容を盛り込めば、就労支援に直接かかわる方々に役に立つのではないかと意見を頂いた。</p> <p>③ 関東圏内の行政機関に勤務する保健師から「プログラム内容の詳細」の質問を受け、その方が行っている研修会の内容と比較してどのような内容が有効であるか等ディスカッションさせていただいた。</p> <p>④ 串間市ボランティア協会に登録している方々を対象に研修会を開催。</p> <p>⑤ 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報に研究報告を行った。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：</p> <p>人 数： 実人数 (0) 人 延人数 (0) 人</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>研修会開催地区のキーパーソンとの協議を踏まえて、開催地区の精神保健福祉に関する特性、研修会参加者の特性を考慮しつつ研修プログラムを改定していった。そのプログラムの評価という観点で学会での発表を重ねて、第三者の意見を頂きながら研修会プログラムを完成させていった。今後、このプログラムを用いて啓発活動を継続していきたい。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>平成 28 年度で終了</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>川村道子</p>

1-1)-⑤

事業名	日南中心市街地活性化支援 －健康志向の人づくり・まちづくりへの支援－事業
対 象	日南地区をはじめとした一般住民
事業組織	宮崎県立看護大学教員 (江藤敏治、串間敦郎、長鶴美佐子、松本憲子 他) 日南市役所 日南まちづくり株式会社
事業計画	<p>目的：</p> <p>宮崎県日南市は高齢化率 31%と県平均を 5.2 ポイント上回る中、住民一人あたりの医療費は県下で最も高く、特定健診受診率も 37.2%と低いことから、健康に対する意識啓発が急務となっている状況にある。これらを背景に、日南市では、市庁、商工業、福祉分野が連携し「健康」をテーマとした中心市街地の活性化と健康意識の向上を一体化した事業を進めようとしている。日南市が抱えているこれらの問題はこれからの宮崎、日本が迎えるであろう問題を包括していると考えられ、健康志向のまちづくりの実現は、高齢化、過疎化の進む宮崎県において、地域住民の QOL の向上の視点から重要な課題である。</p> <p>そこで、我々は、日南市と協働して、日南油津地区に宮崎県立看護大学のサテライトを設置し、宮崎県立看護大学の持っている人的資源、研究成果等を活用した取り組みをモデル的に行う事業に取り組む。それにより地域の健康増進ばかりでなく、生活の充実、生きることの幸せ、多幸福感の形成から最終的には元気な町づくりや人づくりそして、地域のコミュニティづくりへと発展することを目指す。さらに、日南市をモデルとして取り組んだ支援過程の評価をとおして、他市町村へ適用可能な健康志向の人づくり・まちづくりの方法を見出すことを目的とする。</p> <p>平成 27 年度は、毎月の健幸講演会に加え日南元気大会「飛び出す！看護大学」と題し、あぶらつ商店街に新規オープンした多目的市民交流ホールにて学生教職員 20 名以上が参加して市民の健康増進に貢献した。また、当日の市民アンケートを基に今後の健康増進企画を検討する。</p> <p>実施内容：</p> <p>1) 月 1 回、あぶらつ商店街交流プラザにて地域住民を対象に健康支援（健幸講演会）を行い、健康相談も同日に実施した。</p> <p>1 回目：4 月 15 日（40 名） がんのサイン～1 胃がん 大腸がん 2 回目：5 月 13 日（40 名） がんのサイン～2 肝臓がん 肺がん 3 回目：6 月 10 日（40 名） 高齢者が罹りやすい病気とその予防 4 回目：7 月 8 日（40 名） 季節の病気～夏バテ、熱中症予防 5 回目：7 月 16 日（120 名） 楽しく続けられる健康づくり 6 回目：8 月 12 日（40 名） 健康診断結果の見方 7 回目：9 月 9 日（40 名） ストレス対策～うつ病予防 8 回目：10 月 14 日（40 名） 元気ハツラツ栄養学 9 回目：11 月 11 日（30 名） 認知症予防 10 回目：12 月 9 日（30 名） 高齢者が罹りやすい病気とその予防 11 回目：1 月 13 日（20 名） 心筋梗塞の予防 12 回目：2 月 10 日（20 名） 脳梗塞の予防 13 回目：3 月 9 日（20 名） 慢性腎臓病の予防</p> <p>2) 11 月 22 日、看護大学学生並びに教員による健康大会を実施した。 飛び出す！看護大学 11 月 22 日（1000 名） 日南市との共同企画にて、新規市民交流プラザにて別紙報告書の通り複数企画を実施。 特別セミナーのほか、子育て・孫育て講座、高齢者の体力測定と介護予防健康運動、思</p>

	<p>春期子育てセミナーなど、前年度から実施しているセミナーを中心に学生ボランティアと共に日頃の学習成果を市民に還元するとともに健康に関するアンケートを実施した。</p> <p>3) 地域住民を対象に、健康診断受診率の向上等の健康指標、元気度、幸福度のアンケート調査を行い支援の評価を行うとともに、次年度に活かす課題を見出す。</p>
実施状況及び結果	<p>健幸講演会ならびに健康大会など計 14 回の活動を通し、一般市民、地域保健師、健康増進関連職員など、延べ人数 1520 名に対し活動を展開した。毎月の活動は前記のとおりで、職員の参加回数は江藤(14 回)、長鶴；子育て・孫育て講座(1 回)、串間；高齢者の体力測定と介護予防健康運動セミナー (1 回)、松本；思春期子育てセミナー (1 回)であった。</p> <p>日南元気大会「飛び出す！看護大学」では、「健康を支える～人とのつながり・地域とのつながり」(江藤)、コラボレーショントーク「つながる心」(江藤)、コラボレーショントーク「めざせ！歩&美&美活力アップ」(串間)、「思春期の子どものこころとからだ」(長鶴)による健康講演会も実施した。地域住民の参加者は延べ 1000 名に及んだ。</p> <p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：日南元気大会にて学生が事業に参加した。内容は学生による公演「あなたの健康守り隊」～血管イキイキ將軍のほか、親子で楽しく輪ッハッハ、日南っ子育て、骨密度測定、体組成測定、血圧測定、健康相談など、教員のサポートや市民への直接的な健康支援など日頃の学習に基づいた保健活動を実践した。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>人数： 実人数 (13) 人 延人数 (13) 人</p>
評価改善点	<p>1 年間を通して、日南市での活動で参加した市民が 1520 名に及んだ。アンケート自由記載には「大学の皆さん、お疲れさまでした。わかりやすくおもしろかったです。」「今後も油津に是非関わってください。」「食生活の相談、日南学園の先生のお話も聞きたい。」「今回のイベントで体の状態がわかりよかった。これからも続けてほしい。」「この日に来れば学生さんに会える、一緒になにかできる(今日のウォーキングレッスンのようなものでも)という気軽さ、親しみやすいイベントがあるとよい。」「本日はありがとうございました。今後もよろしくお願いします。」「学生さんの寸劇をみました。わかりやすく楽しかったです。ゆっくりよく噛んで食べようと思いました。」「健康で長生きすることが幸福の一つ、それは個人個人が気を付けなければならないが周りからサポートして頂く看護大学の皆さん、学生さんにも感謝しています。今日一日色々な方の講演を聞かせて頂きありがとうございました。」「今後もこのようなことをしてください。学生さんの寸劇、おもしろかったです。」などポジティブな意見も多く、この事業が日南市民にとって有益なものとなっていることが理解された。</p> <p>今後は、参加者を増すだけでなく、市民主体の活動を展開することを目標とした。また、年間スケジュールを詳細に決め、パンフレットを作成し配布すること、事業内容をケーブルテレビや新聞などメディアを活用して市民と共有することを日南市と協議した。</p>
次年度計画	<p>次年度計画として、</p> <p>①前年度に引き続き健幸講演会をはじめとした「日南中心市街地活性化支援～健康志向の人づくり・まちづくりへの支援～」を目指した活動を展開する。</p> <p>②町の保健室や地域健康増進課と連携を図り、講演会に合わせ出張健康相談を実施する。</p> <p>③学生との共同企画を計画し、日頃の学習を地域にて展開する。</p> <p>④地域元気大会を、地域住民を中心に企画し開催する。</p> <p>⑤日南市民の中での健康度調査(意識調査ならびに特定健康診断受診率、がん検診受診率、有疾病率など)を油津地区と他地区で比較し、宮崎県でのその他の地区での活動の参考となるような本活動の影響度など評価分析を実施する。</p>
記載責任者	江藤 敏治

1-1)-⑥

事業名	高齢者のための介護予防運動活動の支援
対 象	介護予防運動教室の指導者と宮崎市内の一般高齢者
事業組織	宮崎県立看護大学（串間敦郎、中村千穂子、高尾千賀子、川越竜一、原村幸代、中角吉伸）と宮崎市長寿支援課
事業計画	目的： 高齢者のための介護予防運動活動の支援
	実施内容： 宮崎市健康運動教室の指導員のフォローアップを行った。また「宮崎いきいき健幸体操」を一般市民と事業所へ向けの研修会を実施し普及を推進した。
実施状況 及び結果	<ul style="list-style-type: none"> ・本学教員（串間、高尾、川越、原村）が施設や事業所職員等の専門職向けの「宮崎いきいき健幸体操」の専門研修会を2日間にわたり実施し、39名の参加があった。 ・長寿支援課職員が一般市民向けに「宮崎いきいき健幸体操」の研修会各2日間を11回実施した。（参加者合計527名） ・本学教員（串間）が宮崎市介護予防運動教室指導員に対し活動支援のためのフォローアップ研修会を行った。題目「ウォーキング向上再考ー指導上の留意点ー」 ・宮崎ケーブルテレビと共同で、体操啓発と市民の身体機能の維持向上のために市民向けの実践番組を作成し、毎日定期的に放送した。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	<p>昨年度と同様の事業を今年度も継続的に実施した。運動教室指導員のフォローアップ研修会は、ウォーキング向上プログラムの理解と実践が難しいという意見を受けて、そのプログラムについて行った。</p> <p>川越助手が退職するために、その担当分を次年度は中角助教が行う事となるために、研修会前後で引き継ぎを行った。</p> <p>今後も宮崎市の担当者と連携をとり、各方面への支援をしていきたい。</p>
次年度 計画	今年度と同様に、一般市民向けと専門職向けの研修会を改善しながら充実させていきたい。
記載 責任者	串間 敦郎

1-2)-①

事業名	看護職者のための看護力再開発講習会（看護技術演習コース）
対 象	未就業の看護職者
事業組織	宮崎県立看護大学 宮崎県看護協会ナースセンター 協働開催 宮崎県立看護大学 栗原保子, 毛利聖子, 勝野絵梨奈, 坂井謙次, 日高真美子, 武田千穂
事業計画	<p>目的： 再就業を希望する未就業看護職者に対して、自己の潜在能力を高められるよう看護技術講習会を企画・実施し、再就業を支援する。本事業は、宮崎県看護協会との合同企画である。看護職能団体との連携の強化を図ることで、県内の看護の質の向上に貢献する。</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護力再開発講習会（看護技術演習コース）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・午前中は、講義および演習形式で行い、午後よりモジュール方式による看護方法実習書やビデオ教材等を使用して自主学習を行う。プログラム内容は別添資料に示す。 2) 講習会プログラムの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・講習時の受講者の反応や感想等についてアンケートを実施しプログラム内容の検討を行う。 3) 再就業の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の経験・離職年数等を把握し、希望する就職先とのマッチングを行う。 ・講習会終了3か月及び6か月後に、就業状況調査を行う。 4) 報告書作成
実施状況及び結果	<p>「看護力再開発講習会－看護技術演習コース－」を、プログラムに即し5日間集中型で開催した。前年度と同様、単元別選択制にして、受講者の方が再就業を目指す領域に必要な演習項目が選択できるように取組んだ。定員30名に対し、受講希望者は実人員32名であった。講義コースに引き続き受講した研修生は12名であった。32名中25名が演習4日以上を受講し、技術演習の全単元を受講した研修生は22名であった。前年度に比べ、積極的参加者が多かった。受講終了後の演習についての理解度、目標達成、満足度に関する調査（4段階尺度評価、自由記述）において、どの単元においてもわかりやすかった（平均3.8以上）、実践に役立つ内容だった（3.8以上）と等肯定的評価であり、満足度が高いことがわかった。演習後には知識面・技術面の自信が向上する結果となった。また、受講3か月後の就業状況調査では、未就業者36名（講義コース参加者も含む。回収率88.5%）中、21名が再就業しており、68%の達成率であった。再就業先としては、病院・診療所に7名が就業しており、その他は住宅型有料老人ホームなどの高齢者施設、障害者支援施設、保育園などであった。</p> <p>看護力再開発講習会は、講義コース、本コースの後に、これらのコースで得た専門知識や技術をより深めるために、実習講習（宮崎県看護協会主催）という実地訓練の場も開催している。前年度と同様、技術演習コース受講後間もなく実習を組み込んでいるため、実践に結びつきやすかったと好評であった。現在（2月）、再就業を希望しているにも関わらず就業に至っていないケースについては、今後も宮崎県ナースセンターが窓口となって、就業相談及び情報提供等を引き続き行い受講者への支援活動を実施していく。</p> <p>平成27年度看護力再開発事業報告書を作成した。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：なし</p> <p>人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>評価： 事業結果より、再就業を希望しながらも不安を抱えて就業に踏み切れない看護職者の就業支援として本事業を継続して行うことは意義がある。単元毎の選択制導入は、受講生にとっては自由度があり好評のため引き続き実施する。</p> <p>改善点： 看護力再開発講習会では、今年度より、新たに、地区別看護力再開発講習会（宮崎県・宮崎県看護協会主催）、復職支援交流会（宮崎県・宮崎県看護協会主催）を企画・実施した。地区別看護力再開発講習会への本学の参加については、次年度開催において日程調整（今年度は臨地実習と重複）がつけば参加する予定である。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>看護力再開発講習会－技術演習コース－を継続して実施する。 実施方法は5日間集中コース（単元別選択制）とする。 地区別看護力再開発講習会への参加を検討する。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>栗原保子</p>

平成27年度 看護力再開発講習会 看護技術演習コースプログラム

【宮崎県立看護大学・宮崎県看護協会協働事業】

研修会場：宮崎県立看護大学 臨床実習室Ⅰ・Ⅱ

(敬称略)

日時	9:00	12:00	13:00	15:30
9/7 (月) 定員 30名	ガイダンス	<p>看護技術力を高めるとは 宮崎県立看護大学 教授 栗原保子</p> <p>検査と看護（採血法） 診断・治療過程における検査の意義と看護の役割を再認識する。本単元では、「採血」技術を修得する。 宮崎県立看護大学 教員 坂井謙次 支援者：(伊尾喜・當瀬・蚊口・藤元・荒川)</p>	休憩	<p>【自主学习】 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 支援者：(伊尾喜・今藤蚊口・荒川)</p>
9/8 (火) 定員 30名		<p>与薬と看護（注射法） 治療に伴う看護技術のうち、身体に直接影響を及ぼす与薬について理解を深める。本単元では、「注射」技術を修得する。 宮崎県立看護大学 教員 中角吉伸 支援者：(日高・吉田・丸田・荒川)</p>	休憩	<p>【自主学习】 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 支援者：(今藤・川越福永・丸田・荒川)</p>
9/9 (水) 定員 30名		<p>感染予防策の実際（感染防御） 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。本単元では、「手洗い」等、感染予防に必要な基本技術を修得する。 宮崎市郡医師会病院 感染管理認定看護師 篠原真理子 支援者：(田多良・高橋・荒川)</p>	休憩	<p>誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケアと吸引 「口腔ケア」が発熱や肺炎の予防といった全身の健康維持にも関連することを理解し、口腔ケアの方法、吸引の手技について修得する。 宮崎県立看護大学 教員 原村幸代 支援者：(川越・當瀬・荒川)</p>
9/10(木) 定員 30名		<p>急変時の看護 （急変時フィジカルアセスメント及び救急蘇生） 身体機能面から見た急変時フィジカルアセスメントのとらえ方としてエビデンスに基づいた呼吸器・循環器の理解と対処の仕方を学び、最新のガイドラインに基づく心肺蘇生の基本を修得する。 宮崎市郡医師会病院 救急看護認定看護師 鶴野和代 支援者：(黒木・上田・溝口・荒川)</p>	休憩	<p>【自主学习】 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 支援者：(福永・上田溝口・荒川)</p>
9/11(金) 定員 30名		<p>移動動作の援助 看護の対象者、看護者双方の安全、安楽を守るために必要なボディメカニクスを確認し、移動動作の援助を中心とした基本技術を修得する。 宮崎県立看護大学 教員 坂井謙次 支援者：(尾井・福浦・藤元・荒川)</p>	休憩	<p>【自主学习】 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 支援者：(尾井・吉田・荒川)</p>

1-2)-②

事業名	感染管理スキルアップ研修事業
対 象	県内の看護職者
事業組織	宮崎県立看護大学 栗原保子、小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、勝野絵梨奈
事業計画	<p>目的： 1) 安全な医療を提供するために感染管理の質の向上と、感染管理に関するより専門的な知識及び技術を修得し、チームリーダーとして自施設の医療関連感染の予防と管理に貢献できる人材を育成する。 2) 感染管理における看護師リーダー育成のための教育プログラムの開発を行う。</p> <p>実施内容： (A) 感染管理スキルアップ研修会、(B) 感染管理スキルアップ研修<出前講座>、(C) フォローアップ研修会の実施。</p> <p>(A) 感染管理スキルアップ研修会 目的： ① 県内の医療機関に所属する看護職者の感染管理に対する意識を高め、実践型教育を通して看護実践能力の向上を図る。 ② 所属機関においてリーダーシップを発揮しながら感染対策への改善を図る。 実施計画 ① 感染管理スキルアップ研修会【実施要領】に基づき実施する。 ② 研修評価（*調査にあたっては事前に宮崎県立看護大学研究倫理委員会へ申請し承認を得る）を行う。 ③ 報告書作成。 ④ 研修報告とあわせ、社会化（学会発表等）に取り組む。</p> <p>(B) 感染管理スキルアップ研修<出前講座> 目的： ① ある地域の医療施設における院内感染対策担当者を対象に、体験型研修（院内ラウンド実施）を導入・実施し、感染対策への改善を図る。 ② 保健所との協働開催により、看護職及び多職種による県内感染管理ネットワークの構築に向けた整備を進める。 実施計画 ① 感染管理スキルアップ研修<出前講座>【実施要領】に基づき実施する。 ② 医療機関からのニーズに応じ対応する（大学HP等を活用した広報活動の実施）。 ③ 研修評価（*調査にあたっては事前に宮崎県立看護大学研究倫理委員会へ申請し承認を得る）を行う。 ④ 研修報告とあわせ、社会化（学会発表等）に取り組む。</p> <p>(C) 感染管理フォローアップ研修会 目的： 感染管理認定看護師教育課程修了生の自己研鑽の推進および感染管理認定看護師相互の情報交換を行いネットワークの拡大を図る。 実施計画 ① 感染管理認定看護師資格取得に向けた学修支援及び模擬試験を実施する。 ② 医療関連感染予防・管理に関する教育講演会（公開講座）を実施する。 ③ 感染管理認定看護師教育課程修了生と感染管理認定看護師の意見交換会を行う。 ④ 感染管理認定看護師教育課程修了生による実践報告会を実施する。</p>

実施状況 及び結果	<p>(A) 感染管理スキルアップ研修会 看護師リーダー育成のためのスキルアップ研修会（平成 27 年 5 月～10 月）を開催した。応募者が多数となり 28 名で実施した（募集定員 20 名）。研修終了後の自記式質問調査（5 段階尺度及び自由記述）結果では、感染対策に関する理解度、活用度すべてにおいて高得点を示した。実践的研修プログラムとして評価でき、感染対策のスキルアップに繋がっている。また、自由記述内容の分析からも、組織的活動を行うリーダーとしての自覚が強化されているという結果を得た。最終報告書を提出した 26 名に対し本学発行の修了証を授与した。</p> <p>以上の結果を踏まえ、平成 27 年度感染管理スキルアップ研修事業報告書を作成した。また、研修の成果を、第 31 回日本環境感染学会学術集会（平成 28 年 2 月：京都府開催）で報告した。</p> <p>(B) 感染管理スキルアップ研修＜出前講座＞ 感染管理スキルアップ出前事業に関しては、高千穂保健所との協働開催で高千穂町国民健康保険病院および高千穂保健所で実施した。院内ラウンドを取り入れた実践的内容を含む研修プログラム（2 日間）を計画し実施した。第 1 回目（院内ラウンド・問題解決型ワークショップ）には、5 医療機関、10 高齢者施設から看護職者 19 名が参加し、第 2 回目（講義・事例検討）には、4 医療機関、13 高齢者施設から看護職者及び介護職者 35 名が参加した。研修終了後の調査では、回答のあったすべての参加者から、自施設の感染対策に向けて役に立つ内容（情報）であったとの評価を受け、県北の感染管理ネットワーク整備・構築に向けた一助になっていることがわかった。また、高齢者施設においては、より感染症対策に苦慮している現状も明らかとなったことから、介護職者を含めた研修会を継続的に開催していくことの重要性が示唆された。</p> <p>以上の成果を踏まえ、平成 27 年度感染管理スキルアップ研修事業報告書を作成した。また、研修の成果を、第 46 回日本看護学会－看護管理－学術集会（平成 27 年 9 月：福岡県開催）で報告し社会化を行った。</p> <p>(C) 感染管理フォローアップ研修会 平成 26 年度感染管理認定看護師教育課程修了者を対象に、感染管理認定看護師資格取得に向けた学修支援として認定審査模擬試験を実施した。修了者 16 名のうち 15 名が認定審査に合格し資格を取得した。修了生のうち 5 名が所属する医療機関で、感染管理認定看護師の資格を活かして専従で勤務し、11 名が兼任として活動している。資格取得できなかった修了生 1 名に対しては、ミニテストや模擬試験を実施し学修支援を継続した。</p> <p>第 1 回フォローアップ研修会では、講演会「医療機関における MERS 対策」を開催した。医療関連感染予防・管理に従事する医療関係者 92 名が参加した。アンケート結果では、理解しやすく参考になる内容だったとの評価を得た。感染管理認定看護師と本教育課程修了生の意見交換会には 28 名が参加し、討議内容について参加者のほとんどが今後の実践に活かせそうと評価していた。</p> <p>第 2 回フォローアップ研修会を開催した。内容は、修了生の実践報告会である。23 名（修了生 12 名、研修生 11 名）が参加し、修了生 11 名が実践報告を行った。参加者からは、刺激を受けた、責任感が生まれたなどの肯定的評価が多かった。実践報告会終了後の参加者の反応から、研修参加による認定更新時のポイント加算へのニーズが高いことがわかった。ポイント加算の実態を把握したところ、本研修会もポイント加算に該当することがわかったので、受講証明書発行条件を整理し、受講証明書を発行した。</p> <p>また、実践報告会で発表された演題のうち所属施設の了承が得られた 10 演題については、実践の成果として、『感染管理認定看護師教育課程フォローアップ研修会平成 27 年度実践報告書』を作成した。</p>
	<p>学生の参加状況 *なし 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>

<p style="text-align: center;">評価 改善点</p>	<p>評価 事業目的に即した成果をあげている。 今年度、感染管理認定看護師教育課程フォローアップ研修を開始したことで、修了生と県内の感染管理認定看護師および本教育課程修了生と研修生のネットワークの整備・構築に向けた一助となった。また、自己研鑽につながる研修を県内で受講できることは、研修参加による認定更新時のポイント加算につながると同時に、修了生にとっては実践活動へのモチベーション維持につながるといえる。</p> <p>改善点 ○教育プログラムの内容（A）については、研修評価をもとに、受講者が組織において実践的な取組が可能になるよう、サーベイランスの事例演習や感染性胃腸炎の吐物処理等の実技演習をより積極的に導入する。また、最終報告書（課題）の提出内容については、各受講生が研修で取組んだ具体的な成果を表現できるように、どのように支援体制を整えるかが課題であることがわかったので、その点を、次年度計画に活かす。 ○フォローアップ研修会については、次年度も受講証明書発行の条件を整理し、受講証明書を発行する。今後は本報告会をもとに学会発表につながる研究支援を行うことが課題である。また、フォローアップ研修会の支援者として、修了生を組み込むことにより、感染管理認定看護師と修了生および研修生のネットワークの強化と深化を図っていく。</p>
<p style="text-align: center;">次年度 計画</p>	<p>(A) 感染管理スキルアップ研修会の実施 (B) 感染管理スキルアップ研修＜出前講座＞の実施 (C) 感染管理認定看護師教育課程フォローアップ研修会の企画と実施 ① 感染管理認定看護師資格取得に向けた学修支援を行う。 ② 感染管理認定看護師資格取得後のスキルアップを目指した学修支援を行う。 ③ 感染管理認定看護師資格更新時の条件であるポイント加算につながる研修会の開催と受講証明書の発行を行う。 ④ 研究支援を行う。</p>
<p style="text-align: center;">記載 責任者</p>	<p>栗原 保子</p>

1-2)-③

事業名	看護研究支援・講師派遣事業
対 象	県内看護職
事業組織	宮崎県立看護大学看護研究・研修センター
事業計画	目的： 地域における現任看護職者の看護（研究）の質の向上のために教員を派遣し研究を支援する。
	実施内容： 1) 研究支援の要請があった場合は、教員の中から人選して派遣する。 2) 研究支援に関する活動実績及び課題を年度末に把握する。
実施状況 及び結果	平成 27 年度の学外調査によると 17 団体及び個人に対して、12 名の教員による 62 回の研究支援実績があった。また、自治体等との共同研究に 7 名の教員が取り組んでいた。課題についての記載は特になかった。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	これらの研究支援の実績は平成 26 年度と同様であり、実践現場への研究支援が定着してきていると評価できる。
次年度 計画	1) 研究支援の要請があった場合は、教員の中から人選して派遣する。 2) 研究支援に関する活動実績及び課題を年度末に把握する。
記載 責任者	小野美奈子

1-2)-④

事業名	研修会講師派遣事業
対 象	県内看護職
事業組織	宮崎県立看護大学看護研究・研修センター、宮崎県看護協会他
事業計画	目的： 看護協会などと協働して看護職者等を対象とした教育研究活動を支援するために教員を派遣する。
	実施内容： 1) 講師派遣要請があった場合は、テーマにそって教員を人選して派遣する。 2) 派遣実績を記録していく。 3) 学外講義に関する活動実績を年度末に把握する。
実施状況 及び結果	1) センターを通じた新規の講師派遣の要請はなかった。 2) 本学教員の研修会講師の実績については、「平成 27 年度地域貢献に関する教員の学外活動調査」にて把握した。平成 27 年度は延べ 172 人の教員が 1093 時間の研修会講師を担当した。また研修会等で延べ 91 名の教員が 826 時間ファシリテータや助言者など講師以外の活動を行っていた。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	研修会講師等の依頼は、平成 26 年度同様、多くの教員が学外活動の依頼にこまやかに対応しており、現場からのニーズに対応できていると評価できた。
次年度 計画	1) 講師派遣要請があった場合は、テーマにそって教員を人選して派遣する。 2) 派遣実績を記録していく。 3) 学外講義に関する活動実績を年度末に把握する。
記載 責任者	小野美奈子

1-2)-⑤

事業名	現任看護職者のキャリアアップをはかる事業 県内の助産師のネットワーク作りとキャリアアップをはかる事業
対象	県内で就業している助産師
事業組織	宮崎県立看護大学：菅沼ひろ子、橋口奈穂美 一般社団法人宮崎県助産師会：上原えり子、森伴子、田中優子、水畑喜代子
事業計画	目的： 助産師活動の連携や相互の浸透を図る助産師のネットワーク作りと、助産師活動をさらに活性化することを目的として研修会・研究会を開催する。宮崎県助産師会と協働で企画運営し、県内助産師の助産活動の質の向上に貢献する。 実施内容： 第1回：4月25日(土)13:00～16:10 大阪府立総合周産母子センター 佐藤拓代 助産師の相談対応力とコミュニケーション力の向上をめざして 第2回：6月6日(土)13:00～16:10 専門職としての責任と職務について 宮崎大学 板井孝一郎 第3回：8月2日(日)13:00～16:10 産科救急対応について ～肩甲難産～ 宮崎大学医学部看護学科 金子政時 第4回：10月31日(土)13:00～16:10 災害時における助産(師)活動 宮崎大学医学部看護学科 兵頭慶子 第5回：1月24日(日)13:00～16:10 女性のライフサイクルと健康 宮崎県立看護大学 菅沼ひろ子
実施状況及び結果	第1回研修会は講師の都合で中止となる。第2回「専門職としての責任と職務について〈倫理研修〉」には28名参加、第3回「産科救急対応について」40名参加、第4回「災害における助産師の活動」23名参加、第5回「助産力の真髄～対象の安心と自覚、そして自信へ」32名の参加があった。すべての研修会で、病院診療所勤務助産師と助産所勤務もしくは地域活動助産師が約5対1～1対1の比率で参加がみられ、グループワークでも、「たくさんの世代の方とグループワークで様々な経験やアドバイスをいただき刺激を受けた」「助産の原点を考えるいい機会になりました。他の方々の意見も聞いて刺激になった」と、施設と地域活動助産師のつながりが図られていると捉えられる意見がみられた。県立看護大学で全研修会を開催予定であったが、第3回第4回の開催場所が、講師の都合で宮崎大学総合教育研究棟に変更になった。場所変更に関しては、研修会広報チラシに道順案内図を掲載し、変更場所を明確にした。 学生の参加状況 活動内容： 人数： 実人数(0)人 延人数(0)人
評価改善点	今後の活動に参考になったかの問いに、「とてもそう思う」で7割以上、「まあまあそう思う」を含めると10割となり、参加者は内容に満足しているといえる。昨年、他機関の研修と日程が重なり、希望者が参加できないという反省点があった。また土曜日半日の施設勤務や活動をしている助産師達が日曜日の開催を希望していることもわかり、日程調整をはかった。参加者のほとんどは主体的参加であり、施設勤務助産師と地域活動助産師相互に良い刺激となっており、社会・医療の動きと連動した研修会を今後も継続していく。
次年度計画	継続事業とし、3回の研修会を予定している。
記載責任者	橋口奈穂美

1-3)-①

事業名	保健師の力育成事業
対 象	県内保健師
事業組織	<p>宮崎県立看護大学：小野美奈子、川原瑞代、田多良佳代、日高美加子（看護研究・研修センター）</p> <p>宮崎県保健所保健師：木添茂子・塩田栄子（延岡保健所）、又木真由美・後藤由佳（日南保健所）、武田靖子（都城保健所）、田中美幸・今村三千代（小林保健所）</p> <p>榎田恵美（高鍋保健所）、蛭原夕起子（日向保健所）</p> <p>宮崎県看護協会保健師職能委員：濱田京子（都城保健所）</p> <p>宮崎県医療業務課看護担当：坂本三智代・岩倉千佳</p> <p>宮崎県内市町村保健師：成地富美（延岡市）</p> <p>宮崎県看護協会：内田三代子</p> <p>退職保健師：山内裕子（宮崎県後期高齢者広域連合）・荒瀬みえ</p>
事業計画	<p>目的：</p> <p>①県内の保健師の現任教育による実践力向上を目指し、県民の健康の維持向上と健康的な地域社会の創造に寄与できる保健師活動を支援していく。</p> <p>②平成 25 年度作成の保健師現任教育マニュアル及び研修プログラムの検証を行う。</p> <p>実施内容：</p> <p>宮崎県保健師現任教育推進委員会を組織し、以下の活動を行う。</p> <p>(1) 宮崎県保健師現任教育推進委員会の開催</p> <p>(2) ①段階別保健師研修の企画・実施・評価</p> <p>・新任保健師研修Ⅰ、新任保健師研修Ⅱ、中堅保健師研修Ⅰ、中堅保健師研修Ⅱ、リーダー保健師研修</p> <p>②研修プログラム（アクションプラン等）への個別指導</p> <p>(3) コンサルタント登録及び派遣</p> <p>(4) 現任教育自主グループ活動支援</p> <p>・保健師カフェの開催 ・第 4 回日本公衆衛生看護学会ワークショップ開催</p> <p>(5) 現任教育マニュアルの評価・改善</p> <p>(6) 宮崎県保健師現任教育推進体制の評価・改善及び関連する調査研究</p> <p>・宮崎県における中堅保健師の実態調査</p> <p>(7) 学会報告等（第 4 回日本公衆衛生看護学会ほか）</p>
実施状況及び結果	<p>1) 宮崎県保健師現任教育推進委員会を組織し、以下の活動を行った。</p> <p>(1) 宮崎県保健師現任教育推進委員会の開催（5/22. 8/24. 12/22. 3/7: 宮崎県立看護大学）</p> <p>(2) ①段階別保健師研修の企画・実施・評価</p> <p>・新任保健師研修Ⅰ：計画通り実施し地域保健活動に必要な基本的知識・技術の修得を行った。（実施日：7/27. 9/4. 10/29. 11/26. 12/8. 2/2, 会場：日南保健所他, 受講生 16 名）</p> <p>・新任保健師研修Ⅱ：計画通り実施し地域の顕在的・潜在的健康課題解決に取り組んだ。（実施日：7/31. 9/8. 12/8. 2/4, 会場：小林保健所他, 受講生 13 名）</p> <p>・中堅保健師研修Ⅰ：計画通り実施し、健康課題解決のためのシステム改善に繋がる取組を行った。（実施日：8/12. 9/11. 9/26. 10/22. 11/5. 12/3. 2/2. 2/18, 会場：延岡保健所他, 受講生 9 名）</p> <p>・中堅保健師研修Ⅱ：受講生なし</p> <p>・リーダー保健師研修：計画通り実施し、保健活動を評価し発展させる調査研究能力の向上を図った。（実施日：7/24. 8/28. 9/19. 2/4. 3/4, 会場：宮崎県立看護大学他, 受講生 3 名）</p>

	<p>②研修プログラム（アクションプラン等）への個別指導</p> <p>③「現任保健師研修会 アクションプラン実践及び研究報告集」作成</p> <p>(3) 退職保健師に対しコンサルタント登録を依頼し、2名が各研修会での助言や受講生の個別指導を担った。</p> <p>(4) 現任教育若手保健師自主グループ活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師カフェ・研修会の開催(4/28. 6/20. 10/3・4. 9/12. 12/8. 2/13) ・第4回日本公衆衛生看護学会でワークショップ開催(1/23) <p>(5) 現任教育マニュアルの評価・改善</p> <p>(6) 宮崎県保健師現任教育推進体制の評価・改善及び関連する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県における中堅保健師の実態調査の実施、報告書作成 <p>(7) 学会報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回日本公衆衛生看護学会ほか <p>(8) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」構成員として参加(田中美幸) ・日本保健師連絡協議会において、宮崎県の保健師現任教育の報告(3/5 木添茂子) ・厚生労働省による「宮崎県の保健師の人材育成の取組に関する訪問調査」(2/9) ・地域の健康課題や関心の高いテーマで公開講座を開催し、受講生以外の保健師の実践力向上のための学習機会を提供した。 <p style="text-align: right;">中堅保健師研修Ⅰ(12/3 講師－島根県立大学：永江尚美氏)</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>人 数： 実人数(0)人 延人数(0)人</p>
<p style="text-align: center;">評価改善点</p>	<p>宮崎県保健師現任教育推進委員会が中心となり事業の企画・実施・評価を行うことができた。新任保健師研修Ⅰ・Ⅱ、中堅保健師研修Ⅰ、リーダー保健師研修を計画通りに実施し、それぞれの研修目的、目標を達成できた。研修担当となった保健所は研修企画・運営に細やかに取組み、必要に応じ大学やコンサルタントと連携をとりスムーズな運営ができた。段階別に必要な研修を受講できるよう所属組織へ働きかけていくこと、自己研鑽への意欲を高めしていくこと、引き続き質の高い研修に改善していくことが今後の課題である。さらに、今年度実施した中堅保健師の実態調査の結果を踏まえ、よりニーズに沿った研修体制を整えていく予定である。</p> <p>若手保健師自主グループは、全国の新任保健師自主グループとの連携を図りながら活動を活性化することができた。新任保健師の情報交換や自己研鑽、交流の場として機能している。</p> <p>大学、県、看護協会が一体となった現任教育の取組が評価され、国レベルの報告会等の場で発信できたことは評価できる。次期(平成29年度から)の取組につなげられるよう検証・評価していくことが必要である。</p>
<p style="text-align: center;">次年度計画</p>	<p>*平成26年度～平成28年度事業の最終年度となる。</p> <p>1) 引き続き、平成25年度作成の保健師現任教育マニュアル及び研修プログラムの検証を行いながら事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新任保健師研修Ⅰ(延岡保健所)、新任保健師研修Ⅱ(日南保健所)、中堅保健師研修Ⅰ・Ⅱ(都城保健所)、リーダー保健師研修(宮崎県立看護大学)の企画・実施・評価 ②コンサルタント登録及び派遣 ③現任教育自主グループ活動支援 ④現任教育マニュアルの評価・改善を行い、改訂版を作成する。 ⑤宮崎県保健師現任教育推進体制の評価・改善 ⑥学会報告等 <p>2) 各研修の評価方法について検討する。</p> <p>3) その他</p>
<p style="text-align: center;">記載責任者</p>	<p>川原瑞代</p>

1-3)-②

事業名	児童養護施設における生きる力「性＝生」教育開発支援事業
対 象	児童養護施設に入所している児童とその支援者
事業組織	<p>児童養護施設における生きる力「性＝生教育」を考える研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松本憲子、小野美奈子、壹岐さより、福永美紀、田多良佳代、長友舞（県立看護大学） ・ 河野義貴（県立宮崎病院） ・ 安田真理、前田逸実、宮内真理（中央福祉こどもセンター） ・ 松尾政信、岩切裕美（北部福祉こどもセンター） ・ 飛鳥井祐二、村岡涼子、寺原美保子（南部福祉こどもセンター） ・ 松尾祐子（日南保健所） ・ 山腰美穂子（教育研修センター） ・ 児童養護施設職員（県内 9 施設） ・ 藤田美和（一般社団法人宮崎県助産師会） ・ 加藤陽子（秦産婦人科）・坂本三智代（医療薬務課）
事業計画	<p>目的：</p> <p>児童養護施設で生活する児童の多くは、虐待を受け続けたことに起因する反応性愛着障害やその特性がゆえに、虐待を受けやすい広汎性発達障害等が見られ、集団生活を送る上での課題も多く、様々な場面で個別的なかかわり（支援）を必要としている。</p> <p>特に、性にまつわる様々な問題も少なからず発生しており、児童養護施設等の職員はその対応に苦慮しており、これら対応の在り方が喫緊の課題となっている。</p> <p>そのため、児童養護施設職員をはじめ、医療・保健・福祉関係者等が、『児童養護施設における生きる力「性＝生教育」を考える研究会』を設置し、児童養護施設の入所児童に対して生きる力「性（＝生）」教育（指導）を行うためのネットワーク構築や、児童一人ひとりが正しい性（＝生）の価値観を持ち、性犯罪や望まぬ妊娠、若年出産による虐待の連鎖を防ぐための方策について検討を行う。</p>
	<p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会の開催（1 回／月） ・ 性教育プログラム作成 ・ プログラム作成のための勉強会
実施状況及び結果	<p>毎月 1 回の研究会を開催し、プログラム開発を行った。児童養護施設の性教育の実践は、当初専門家とともに実践していく計画であったが、専門家ではなく児童養護施設の職員が、日々の指導場面や集団の教育の中で実施していきたいという思いがあることが分かり、児童養護施設の職員が実践できるプログラムと指導案・媒体の作成が求められることとなった。このため、性教育プログラムの開発に時間を要することとなった。性教育の実践は、平成 28 年度に各施設で実施し評価することとなった。教育プログラムの開発にあたっては、産婦人科医・助産師・養護教諭の協力を得ることができた。</p>
評価改善点	<p>生きる力「性＝生」教育プログラムを作成し、製本し、関係機関及び関係者に配布することができた。</p>
次年度計画	<p>開発したプログラムをもとに宮崎県内の各児童養護施設で小学生・中学生の生きる力「性＝生」教育に取り組み、プログラム及び教育内容の評価を行う。また、高校生の生きる力「性＝生」教育についても教育プログラム及び指導案・媒体を作成する。</p>
記載責任者	松本憲子

1-3)-③

事業名	学校版月経ヘルスケアプログラム作成事業 ～大学の研究成果を地域に還元～
対 象	思春期女性の健康支援に関わる教育・保健・医療などの関係機関
事業組織	<p>統 括：長鶴 美佐子（宮崎県立看護大学・教授）</p> <p>担当者：</p> <p>【宮崎県立看護大学関係】 吉岐 さより（講師）^{註1)}，長友 舞，蚊口 理恵，福永 美紀（助手） 長津 恵，田丸 喜代子（元宮崎県立看護大学助手）</p> <p>【高校養護教諭】 牧野 啓子（延岡商業高校），浦田 かおる（都城西高校）， 西尾 美智子（宮崎南高校），谷口 節子（都農高校）， 河口 えり（日南高校）^{註2)}，米倉 藍（都城商業高校）</p> <p>【県教育委員会スポーツ振興課】 内山 優子（指導主事：H27.3月まで） 上淵 清美（指導主事：H27.4月から）^{註3)}</p> <p>註1) 4月に講師へ昇任 註2) 4月の異動により勤務校の変更 註3) 4月の異動により担当者の変更</p>
事業計画	<p>目的：</p> <p>県内の思春期女性が月経に対する理解を深め、月経と生活との関連、月経トラブル予防・改善のための工夫などを学ぶことを通して、自分自身に目を向け、自らの「からだ」と「こころ」を理解し「自分を大切にす姿勢や行動を養う」ことができるよう支援するため、県立看護大学が開発した「月経ヘルスケアプログラム」を学校現場で使用できるよう編集し、活用を図る。</p> <p>1. 関係機関への配付と周知 パワーポイント教材のCDを作成するとともに、指導者テキストとパンフレットの印刷を行い、昨年度に完成したDVDと合わせて各学校等に配付を行う。 配付に際しては県教育委員会との連携の下で、県下の小中学校・高校・特別支援学校などに周知し、希望する学校へ無償で配付する。また保健所・各市町村教育委員会などにも配付する。 さらに公開講座や研修会などで、学校版月経ヘルスケアプログラムとともに本教材の活用法などについて紹介を行う。</p> <p>2. 事業のまとめ 本年度が事業最終年となるため、3年間の取組みについて報告書を作成する</p>
実施状況及び結果	<p>1. 学校版月経ヘルスケアプログラム視聴覚教材の完成 7月に指導者テキスト、パンフレットの印刷を行い、昨年度完成したDVDおよびパワーポイント教材CDを合わせて、視聴覚教材の4点セットが完成した。</p> <p>2. 視聴覚教材の周知と配付</p> <p>1) 小・中・高校・特別支援学校への周知と配付 7～8月に県教育委員会等の協力を得て教材配布の案内を行った。県下すべての小・中・高校・特別支援学校が希望し、小学校240校、中学校144校、高校57校、特別支援学校13校の計454校に配付した。</p> <p>2) その他の配付先 県教育委員会、市町村教育委員会、県及び市町村の保健所、児童相談所、児童養護施設、助産所などに配付した。</p>

	<p>3) 視聴覚教材に関する講演活動 統括責任者の長鶴が、「宮崎県高等学校等教育研究会 養護教諭部会（7月）」及び「西都市保健主事部会・養護教諭部会（11月）」で、視聴覚教材の紹介と活用について講演した。</p> <p>3. 追加教材の作成と周知・配付 当初予定していなかったが、より簡単に指導用掲示物や資料の作成が可能となる【掲示資料作成用ファイル】を作成し、大学ホームページからダウンロードできるようにした。各学校には、県教育委員会の協力を得て周知を行った。</p> <p>4. 報告書の作成 3年間の取組みについて報告書にまとめた。</p>
	<p>学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>ほぼ計画通りに視聴覚教材を作成し、希望する学校等に配付を行った。 結果として、県下<u>すべての</u>小・中・高校・支援学校が希望し配付した。この結果は、教育現場において月経が重要な健康問題であることを再認識させられるとともに、配付した視聴覚教材が思春期女性の健康支援に資する可能性を感じさせるものであった。 本事業の真の評価は、今後の教育現場の健康支援活動や生徒の変化などからなされるべきものである。現在、都城地区の養護教諭部会で本教材を活用した健康支援の効果を検証する研究が行われている（8月発表予定）。この結果も参考にして評価をしたいと考える。現時点では幾つかの小学校・中学校・高校から活用状況やその評価について報告をいただいた（報告書に掲載）。それによると、教材を自由に改編でき、使いやすく学校オリジナルの活用方法ができること。生活の基本的な内容があり、女子生徒だけでなく全生徒向けの健康教育教材として活用できること、職員などにも活用したなどの実践報告があった。 これらから、本教材は思春期女性の健康支援に止まらず、様々な年代や人々に活用できる健康支援教材として発展していく可能性があると考えられた。</p>
<p>次年度 計画</p>	
<p>記載 責任者</p>	<p>長鶴 美佐子</p>

1-3)-④

事業名	ひむかヘルスリサーチセミナー事業
対 象	地域保健師をはじめとした医療関係者ならびに学生
事業組織	<p>宮崎県立看護大学教員 (江藤敏治、中尾裕之、松本憲子、他看護大学教員) 宮崎大学医学部看護学科(青石恵子准教授) 宮崎大学教育文化学部(藤井良宜教授、根岸裕孝准教授) 宮崎県福祉保健部 次長 日高良雄 ひむかヘルスリサーチセミナー事務局 (柏田ひろみ)</p>
	<p>目的： これからの高齢社会を見据え、地域医療・保健・健康増進活動をどのように展開していくか極めて重要である。根拠に基づく保健医療サービスの展開や健康政策の決定のためには、地域の特性を把握するための疫学統計は必要不可欠な知識となっている。そして、そのデータに基づいた地域住民の健康増進と、地域の活性化のための政策こそが、限られた資源を有効に活用できる方法である。</p> <p>本事業の目的は、本学卒業生、宮崎県の地域ならびに企業保健師の日常健康増進活動における研究着眼力の養成と健康増進政策確立力の養成である。本事業を通し、宮崎県全県下の健康課題が把握できると同時に、地域保健師の疫学統計に基づいた健康政策力の向上が期待できるとともに、その成果はホームページを通して県民に周知する啓発活動なども通し宮崎県全体の健康増進と地域活性化につながると考えられる。</p> <p>本事業のもう一つの側面として、本セミナーの研究支援事業を通して宮崎県から地域医療保健のエビデンスを論文として発信すること、地域特性を把握し宮崎県立看護大学との共同研究事業を展開すること、セミナー受講生からさらに発展した研究活動を希望する大学院進学の可能性があると考えている。これらの成果はいずれも本大学が地域と連携し、本県の看護、保健、医療事業に極めて貢献するものと考えている。</p>
事業計画	<p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回セミナー (5月21日) 参加者 50名 現場のニーズを把握するためのアンケート及びグループワーク ○第2回セミナー (6月18日) 参加者 40名 目からウロコのエクセル～ピボットテーブルの活用法～ 今日のワンポイント事例検討～保健指導のエビデンス～ ○第3回セミナー (8月27日) 参加者 30名 知って使えるエクセルでの検定 こころの琴線に触れる保健指導 ○第4回セミナー (9月17日) 参加者 20名 知って使えるエクセルでの検定～対応のあるT検定 こころの琴線に触れる保健指導 ○第5回セミナー (10月15日) 参加者 27名 エクセルを用いた疫学講座～カイ二乗検定～ 行動変容理論に基づいた健康支援 ～ヘルス・ビリーフ・モデルとセルフエフィカシーを中心に～ ○第6回セミナー (11月19日) 参加者 35名 目からウロコのエクセル～効果的なデータ視覚化のヒント 未来が輝く！やる気が溢れる！行動変容を導く行動科学アプローチ ○出張セミナー (11月28日) 参加者 25名 エクセルを使ったわかり易い疫学セミナー～グラフ作成から検定まで 保健支援セミナー～こころの琴線に触れる保健指導～

	<p>○第7回セミナー（12月11日）参加者15名 ここでしか聞けないDr. エトーの“保健指導の裏技”</p> <p>○第8回セミナー（1月28日）参加者30名 質問紙作成のポイント 行動変容理論～コーチング編</p> <p>○特別セミナー（2月18日）参加者60名 Team力upのための心が軽くなるコミュニケーション術</p> <p>○第9回セミナー（3月10日）参加者15名 学びを共有！未来に希望の種をまく</p>
<p>実施状況 及び結果</p>	<p>宮崎県立看護大学地域貢献等研究推進事業「ひむかヘルスリサーチセミナー」の初年度事業として、年間通常セミナー9回、出張セミナー1回、特別セミナー1回の計11回開催した。参加者数は延べ300人を数え、保健師をはじめ医師、看護師、保健所職員など多くの医療職者が参加した。さらに、平成28年1月第26回日本疫学会学術総会において本セミナー取り組みをしポスター発表をおこなった。</p> <p>また、本事業を通して、下記事項がセミナースタッフに依頼された。</p> <p>①平成27年度第26回宮崎県地域健康推進研究会（5/14）審査員（江藤） ②平成27年度協会けんぽ宮崎保健指導セミナー（8/31）講師（江藤） ③平成27年宮崎県市町村健康増進計画に係る研修会（11/12）講師（江藤・中尾） ④平成27年度都城地区保健指導スキルアップセミナー（11/30）講師（江藤） ⑤宮崎県看護協会から研修後アンケートの作成についてのアドバイス ⑥延岡地区保健師からの健診データ解析依頼 ⑦平成27年度宮崎県医師会特定健康診査等従事者研修会（2/10）講師（江藤） ⑧宮崎県保険者協議会医療費等データ分析 尚、詳細は別冊報告書にまとめた。</p> <p>学生の参加状況 毎回のセミナーに保健師希望の学生が15名前後参加し、統計学ならびに保健指導法について学んだ。セミナーでの勉学に加え、オープンカフェでの現場の保健師との対話を通して将来の構想を構築する機会を得られたと考えられた。</p> <p>学生の参加状況 人 数： 実人数（ 15 ）人 延人数（ 120 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>毎回セミナーに対するアンケート調査を実施した。その結果、セミナー満足度も非常に高いことや、平成28年1月に開催された第26回日本疫学会学術総会においてのポスター発表での好評などから、本セミナーが、今現場に求められている内容であると考えられた。地域医療保健に対するエビデンスの発信、地域特性を把握した産官学共同研究の展開など地域の看護、保健、福祉、医療事業に貢献できていると考えられた。</p> <p>今後の改善点として、参加者拡充を目指し、市町村への広報を充実させ、年間スケジュールをあらかじめ配布することとした。また、地域診断や広域診断を県内外の保健スタッフと共同で展開していくため、積極的に学術集会におけるワークショップやシンポジウムなどへの参加に努める。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p><疫学統計セミナー></p> <p>①アンケートデザインの構成法（4月） プロスペクティブ疫学調査のデザイン構成法について学ぶ</p> <p>②アンケートサンプリング数の算出法（5月） プロスペクティブ疫学調査のサンプリング数の算出法について学ぶ</p> <p>③地域診断セミナー その1（6月） 地域健診・アンケートデータの解析をエクセルを用いて実践する</p>

	<p>④地域診断セミナー その2 (7月～8月) 地域健診・アンケートデータの解析に基づいた地域診断を実施する</p> <p>⑤ひむかヘルスリサーチセミナー大会開催 (9月) 宮崎県の地域診断に基づく健康増進啓発大会を県民に向け開催する</p> <p>⑥保健疫学調査実施と解析 (10月～2月) データ解析と疫学データを基に地域診断を行い、地域活性化事業セミナー実施 疫学データから地域のニーズを把握し翌年度に展開すべき活動を模索する。 またデータ解析とともに論文作成セミナー実施</p> <p>⑦セミナー活動のまとめと報告書作成 (3月) 活動総括と次年度展開事業について検討する</p> <p><保健指導セミナー> 行動変容理論に基づいた保健指導・支援セミナーを実施する。毎回のテーマ設定は参加者のアンケート要望に基づき決定していく。また、健康診断データ解析に基づいた地域診断から効果的な健康政策の立て方と実践方法および地域のまとめ方についてセミナーを実施していく。</p> <p><出張セミナー> 平成27年度セミナーアンケート調査の結果、セミナー開催が宮崎市での平日夜間のために参加希望があっても参加できないとの声が多数あった。宮崎県の健康課題の一つに中山間地域の健康増進もあることより、年4回ほどの地方開催を実施する。 全期間を通じ年1回の県民に向けた成果報告大会、毎月のニュースレターの発行、ひむかヘルスリサーチセミナーホームページを開設、メーリングリストを兼ねたセミナーブログを展開する。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>江藤 敏治</p>

2. コンソーシアム専門部会

2-1)

事業名	コンソーシアム宮崎への支援
対 象	高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の教職員、在学生、県内の中・高校生等
事業組織	コンソーシアム専門部会
事業計画	目的： コンソーシアム宮崎の各事業への支援をはかり、本学としても広報活動等に活発に利用していく。
	実施内容： 活動の活性化を図るため、各部会に担当者を配置し、活動状況を共有した全学的協力体制づくりをする。
実施状況及び結果	<p>平成 27 年度における本学のコンソーシアム専門部会は、下記の高等教育コンソーシアム宮崎（以下、コンソーシアム宮崎）の事業を支援し、実施した。括弧内は本学の担当者。</p> <p>【学生交流事業】－学生インターゼミナール事業（橋口）</p> <p>【入口と出口充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> －中高生への県内大学情報発信 －大学生への就職支援（就活バスツアー）（古場） －大学生への就職支援（インターンシップ）（大藤） <p>【授業充実事業】－授業ネット配信（川北・河野）</p> <ul style="list-style-type: none"> －単位互換（川北・河野） －コーディネート科目事業（川北・河野） <p>【教育力・研究力向上事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> －合同 FD 事業（橋口） －公募型卒業研究テーマ（甲斐） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> －コンソーシアム宮崎運営委員会（大館） <p>【学生交流事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生インターゼミナール事業 12 月 13 日に宮崎産業経営大学にて開催された。毎年数名の学生が参加しており今回も、学生への参加呼びかけや教員への学生推薦の呼びかけをおこなったが、実習や授業の関係で今年度は参加にいたらなかった。 <p>【入口と出口充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生への県内大学情報発信 コンソーシアム宮崎の依頼にもとづいて情報提供を行い、web 上やサテライト・オフィスでの情報発信を行った。 ・大学生への就職支援（就活バスツアー） 本学学生に対して、就活バスツアーについての情報提供を行った。参加企業（一般企業中心）とのマッチングもあり、本学学生の参加者は無かった。 ・大学生への就職支援（インターンシップ） 本学学生に対して、就職支援に関する講演会等の情報提供を行った。講演内容（演題：「消費者に『おいしい』を届けるために」）が看護職志望者の多い本学学生の特性と合わず、本学からの参加者は無かった。 <p>【授業充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ネット配信 防災士資格取得にかかわる授業について検討を行ったが、平成 27 年度においては実施

	<p>されなかった。</p> <p>・コーディネート科目 宮崎公立大学を会場に10月3日から11月28日まで「宮崎の郷土と文化」のテーマで実施された。本学からの履修はいなかった。全15回の授業のうち、10月24日の授業(1回)について本学が担当した。講師は江藤敏治教授で、演題は「高齢社会宮崎のジェロントロジー～医療看護の役割と自ら輝くハッピーエイジングの可能性～」であった。</p> <p>・単位互換 本学からは、「宇宙地球科学」(小河准教授)、「宮崎の文化」(大館准教授)の2科目を提供した。宮崎大学より1名の学生が「宇宙地球科学」を受講した。</p> <p>【教育力・研究力向上事業】</p> <p>・合同FD事業(橋口) 「平成27年度第1回宮崎大学FD/SD研修会」が宮崎大学創立330記念交流会館コンベンションホールで7月10日に開催され、合同FD事業として参加した。テーマは「アクティブ・ラーニングを評価する」であった。教職員に広報をかけ、FD事業担当者以外に他2名の教員が参加した。会場では、学生が主体的に授業に参加するための工夫や学生の学ぶ姿勢の現状など意見交換が行われた。</p> <p>・公募型卒業研究テーマ事業 本学学生に対して、公募型卒業研究テーマ事業についての情報提供を行った。テーマとのマッチングもあり、本学学生の参加者は無かった。</p> <p>【その他】</p> <p>・コンソーシアム宮崎運営委員会 コンソーシアム宮崎運営委員会(年間3回)に参加し、コンソーシアム宮崎の企画運営に対して協力を行った。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：</p> <p>人 数： 実人数(0)人 延人数(0)人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>コンソーシアム宮崎の事業に対して、本学は協力可能な事業に関して、積極的に協力している。ただし、就職バスツアー、就職に関する講演会、単位互換、公募型卒業研究テーマ事業に関しては、本学学生の参加が無い。理由は看護職志望者が多いという、本学とのマッチングによると考えられる。来年度はコンソーシアム宮崎運営委員会にて、その点を報告し、善処を求めたい。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>平成28年度においても、平成27年度と同様に、コンソーシアム宮崎の事業に協力を行っていく。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>大館真晴</p>

3. 感染管理認定看護師教育課程

【事業報告】感染管理認定看護師教育課程

〈事業組織〉

宮崎県立看護大学 看護研究・研修センター

入試委員会：小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、栗原保子、勝野絵梨奈、
篠原真理子（宮崎市郡医師会病院）、成田知穂（都城医療センター）

教員会：小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、栗原保子、寺島久美、勝野絵梨奈、
境孝子（宮崎県看護協会）、福田真弓（宮崎大学医学部附属病院）

運営連絡会：小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、栗原保子、寺島久美、勝野絵梨奈

センター事務局：日高美加子、杉田加代子

〈事業計画〉

教育理念

生命の尊厳を基盤として豊かな人間性と多職種と協働できる協調性、深く高度な専門知識・技術を身につけ、感染管理の分野で、看護の質の向上と人々の健康と保健・医療・福祉の向上に寄与できる看護職者の育成を目指す。

教育目的

医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、専門的知識と高度な技術に基づいて医療関連感染の予防と管理を実践できる能力、指導できる能力、相談に対応し問題解決に向けた支援ができる能力を育成することにより、施設内においてリーダーシップを発揮し、医療の安全と質の向上に力を発揮できる人材を育成する。

感染管理認定看護師に期待される能力

施設の中心となって多職種と協働しながら、医療関連感染の予防と管理を推進するために以下の能力を身につけることができる。

- 1) 施設の状況を評価し、医療関連感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。
- 2) 医療関連感染予防・管理システムの運用、評価、改善を実践できる。
- 3) 施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。
- 4) 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠を評価し、医療を提供する場で実施されているケアの改善に活用できる。
- 5) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる。
- 6) 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる。
- 7) 医療を提供する場で働くあらゆる人々からの相談に対応し、職業感染防止対策を推進できる。

- 8) 医療関連感染の予防と管理の視点からファシリティ・マネジメント（施設管理）を推進できる。
- 9) 関連組織と協働して、パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。
- 10) 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染の予防と管理が実践できる。
- 11) 上記 1)～10)を通して感染管理分野の役割モデルを示す。

教育課程

1. 教育期間

平成 27 年 7 月～平成 28 年 2 月

2. 授業科目および区分

区分	教科目	必須・選択の別	時間数	単位
共通科目	看護管理	必須	15	1
	リーダーシップ	必須	15	1
	情報管理	必須	15	1
	看護倫理	必須	15	1
	指導	必須	15	1
	相談	必須	15	1
	文献検索・文献講読	必須	15	1
	臨床薬理学	必須	15	1
	医療安全管理	必須	15	1
	対人関係	必須	15	1
専門基礎科目	感染管理学	必須	15	1
	疫学と統計学	必須	30	2
	微生物・感染症学	必須	60	4
	医療管理学	必須	15	1
専門科目	医療関連感染サーベイランス	必須	45	3
	感染防止技術	必須	30	2
	職業感染管理	必須	15	1
	感染管理指導と相談	必須	15	1
	洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	必須	15	1
演習	学内演習	必須	90	3
実習	臨地実習	必須	180	4
合計			660	33

3. 修了要件

次の各号の全てを満たす場合とする。

- ・ 認定看護師に必要な各分野の所定の単位をすべて修得していること。
- ・ 出席時間がそれぞれの科目について、履修すべき時間数の 5 分の 4 以上であること。
- ・ 認定看護師に必要な全教科を含む修了試験において 80%以上の成績を修めていること。

4. 学年歴

	項目	予定日
7 月	入学式	7 日 (火)
	研修生オリエンテーション等	7 日 (火)
	授業開始	8 日 (水)
8 月		
9 月		
10 月	補講期間	19 日 (月) ~21 日 (水)
	科目試験期間	22 日 (木) ~28 日 (水)
11 月	追・再科目試験期間	5 日 (木) ~9 日 (月)
	臨地実習開始	12 日 (木)
12 月	臨地実習最終日	18 日 (金)
	臨地実習報告会	24 日 (木)
	冬期休業開始	25 日 (金)
1 月	冬期休業終了	6 日 (水)
	追実習期間	8 日 (金) ~15 日 (金)
	演習プログラム発表会	20 日 (水)
	修了試験	27 日 (水)
	オープンキャンパス	29 日 (金)
2 月	追・再修了試験	2 日 (火)
	修了判定結果発表	18 日 (木)
	修了式	23 日 (火)

〈教育課程の実際〉

1. 委員会等の開催

入試委員会：平成 27 年 4 月 24 日、5 月 10 日(入学試験)、5 月 15 日、7 月 7 日、11 月 25 日、平成 28 年 2 月 23 日

教員会：平成 27 年 4 月 23 日、7 月 7 日、11 月 5 日、平成 28 年 2 月 10 日、2 月 23 日

実習指導者会議：平成 27 年 9 月 8 日、平成 28 年 1 月 20 日

2. 入学試験および結果の概要

出願書類受付期間：平成 27 年 4 月 6 日(月)～4 月 10 日(金)

入 学 試 験：平成 27 年 5 月 10 日(日)

合 格 発 表：平成 27 年 5 月 22 日(金)

入学前ガイダンス：平成 27 年 6 月 4 日(木)

	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
県内	15	6	0.93	6	6	0.93	6
県外		8		8	7		6
合計	15	14	0.93	14	13	0.93	12

3. 臨地実習について

1) 実習施設および研修生数

実習施設名	研修生数
国立大学法人 宮崎大学医学部附属病院	2 人
宮崎県立宮崎病院	1 人
独立行政法人国立病院機構 都城医療センター	2 人
公益社団法人 宮崎市郡医師会病院	2 人
鹿児島市立病院	2 人
国立大学法人 大分大学医学部附属病院	1 人
日本赤十字社 大分赤十字病院	2 人

4. 実習最終報告会

日時：平成 27 年 12 月 24 日(木)

参加者数：研修生 12 人、学内教員 3 人

5. 感染管理プログラム発表会

日時：平成 28 年 1 月 20 日(水)

参加者数：研修生 12 人、実習指導者 7 人、学内教員 6 人

6. 修了者数

	入学者数	修了者数	休学者数	退学者数
平成 26 年度	12	12	0	0

7. 研修生支援について

個別支援：個人面接、状況に応じた学修方法等の助言

学修支援：修了試験後の科目強化として補講の実施

- ・ 医療関連感染サーベイランス（2 月 15 日 2 コマ）

- ・ 消毒・洗浄と滅菌（2月15日1コマ）
- ・ 微生物と感染症学（2月10日3コマ）
- ・ 認定審査に向けた模擬試験を3回実施（2月3日、12日、16日）

8. 認定看護師教育課程に関する広報活動について

- 1) 随時、学外ホームページに情報公開
入学式、講義の様子、修了式
- 2) 募集要項の配布
県内；140 医療機関
九州管内；400 医療機関
- 3) 主任・専任教員による病院訪問
県内；5 医療機関
- 4) 宮崎県看護協会施設代表者会議で説明
日時：平成 27 年 9 月 29 日（火）
- 5) オープンキャンパス
日時：平成 28 年 1 月 29 日（金）13:30～16:00
参加者数：県内 5 名、県外 4 名

9. 教育環境について

研 修 室：平成 27 年度 7 月に研修室に Wi-Fi を利用できる環境が整備されたことにより、研修生は自己のノートパソコンを活用して、検索できるようになった。デスクトップ PC2 台およびプリンター1 台が学内の機器更新に伴い交換され、教卓用のノートパソコンが 1 台追加された。さらに 12 月には教育研究棟全体の Wi-Fi 環境が整備され、専用パスワードを入力することでどこでも使用できるネット環境が整備された。12 月から研修室の利用時間が、利用申請をしなくても 24 時まで利用可能となり、研修生は自己学習を遅くまで行っていた。

情 報 処 理 室：科目によっては情報処理室で講義が行われ、学部生が利用していない時間は、利用申請を行い活用していた。

10. 認定看護師教育機関 認定確認について

日本看護協会認定部の認定確認を受けるにあたり、平成 26 年度の教育課程運営の自己点検・評価を行い、内部資料として報告書を作成した。さらに、認定確認に必要な手続きをオンライン上で行い、10 月 16 日に視察訪問審査を受けた。視察委員は 2 名で、教育課程の運営に関する確認事項に対する質疑応答と、教育環境の確認が行われた。質疑応答では、募集要項やシラバスの表現が教育基準カリキュラムにそっていない項目等について、その意図が問われた。いずれの項目も基準カリキュラムに準じた講義が展開されており、研修生に不利益は生じていないこと、文書作成時に教育基準カリキュラムの文言を使用しなければならないことを失念していたことを説明した。また、実習要項に記載されている

実習指導者の要件が認定看護師教育機関の認定要件と異なる表現があることが指摘された。実際の実習指導者は、認定要件を満たす感染管理認定看護師が担当していることを説明した。教育環境については、十分に設備が整っていると確認された。

認定確認の結果については、平成 28 年 1 月 22 日に認定部より「認定する（条件付き）」との回答があった。条件は視察時に質疑された内容であり、カリキュラムについて認定看護師教育機関間の教育内容に差が生じないように、教育基準カリキュラムを遵守するよう調整し、2016 年度シラバスを開講までに提出することが求められた。そこで、2016 年度の募集要項およびシラバス、実習要項については、教育基準カリキュラムおよび認定看護師教育機関認定要件を満たす表現に修正し提出した。

〈評価および次年度への課題〉

感染管理認定看護師教育課程は 2 年目（2 期生 12 名）を迎えた。全教科において、各科目担当者が最新の知識及び EBN に基づく講義を展開し、研修生は感染管理に必要な高度な知識と技術を学ぶことができたと考える。また、修了直前に 4 科目 6 コマの補講を実施し、専門知識の深まりによる科目強化と苦手科目の克服につながったと考える。

実習においては、研修生とメールで実習の進捗状況を確認しつつ、各施設を 2～3 回ずつ訪問し、研修生からの相談および報告内容を確認した。その上で、実習指導者と情報交換を行い、学びが深まるように調整した。実習中の相談内容としては、実習記録の記録内容と施設見学に伴う報告書の具体的な記載方法に苦慮していたことがあげられる。個別指導を行い支援したが、次年度以降は記録用紙のフォーマットの提示のみでなく記載例を示すことについて検討していきたいと考える。

また、感染管理プログラム発表会では、全実習施設から実習指導者が参加し、研修生の発表に対し助言があり、自施設の課題の明確化とプログラムの完成に向けた学びが深まった。

さらに、認定審査に向けて在学中に 3 回の模試を実施したことにより研修生は、自己の知識不足科目や強化が必要な科目が明確になり、今後の取組への課題が定まった。

平成 29 年度より 2 年間休講することから、その間に県内医療機関の看護管理者との交流機会を模索し、研修生の確保に向けて取組む必要がある。

研修生の満足度調査では、授業については概ね満足していた。感染管理認定看護師に期待される能力の修得度については、パンデミックや災害時の対応を除く項目で概ね修得できたと回答していた。教員およびセンター事務職員に対しても概ね満足していた。学習環境については、プリンター台数の不足や空調設備の充実を求める要望があった。また、修了生との意見交換会の希望があった。今後も、研修生の意見を活かして教育課程の運営に取組んでいきたいと考える。

〈記載責任者〉

感染管理認定看護師教育課程主任教員 邊木園幸

〈教育課程の様子〉



入学式



グループワーク1



グループワーク2



講義の様子



講師の先生とともに



プレゼンの様子



模擬授業1



実験



演習



模擬授業2



実習指導者とともに



修了式

4. センターが管轄するプロジェクト

4-1)-①

事業名	魅力ある大学づくり・人づくり事業：看護師等の県内定着促進事業
対象	学生
事業組織	県医療薬務課 看護師等の県内定着促進事業運営委員会：宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（小野、日高、杉田）、就職対策委員会及び3年生・4年生学年顧問（川村、串間、松本）、就職相談員（日高、藤原）、事務局（古場昭良、蛭原宏行）
事業計画	目的： 県立看護大学を核として、県内どこでも専門性の高い看護を受けることができる体制づくりを進めるため、卒業生等の県内就職率 50%を目標にするとともにUターン支援を強化し、少子高齢化に対応した地域づくりの推進を図る。
	実施内容： 県立看護大学に就職相談員を配置し、看護大学学生及び県内へのUターンを希望する看護師等に対して、県内就労を支援する。
実施状況及び結果	H.27年7月～H.28年3月 ●就職相談員を2名看護研究・研修センターに配置した。看護師等の県内定着促進事業運営委員会を組織し年3回の会議及び、月1回の就職ミーティング（藤原、日高、川村、小野、日高、杉田）、就職相談員の就職対策委員会への随時参加を行い、課題を確認しながら学生への就職支援を行った。 就職相談員が行った活動は以下の通り。 1) 就職情報室の環境整備（①採用に関する情報収集及び就職情報ファイル等の管理②「就職試験受験結果報告書」の管理） 2) 就職情報の収集・提供に関すること（①採用に関する新着情報等の広報②県内医療機関の採用試験日程・インターンシップ日程の広報） 3) 学生の就職相談に関すること（①就職ガイダンス、模擬面接、合同就職説明会等就職支援事業への参加、協力 ②学生からの就職相談への助言[平成27年度は学生からの相談9件、教員からの相談1件、学生からの情報収集11件] ③相談内容の記録や関係者への報告） 4) 就職対策委員会との連携に関すること（就職対策委員会への出席） 5) 既卒者の就職支援に関すること（既卒者の再就職支援の調査） ●就職相談員が配置されたことを9月5日に開催された宮崎県看護協会の施設代表者会議や平成28年度「看護大からこんにちは」春号の広報誌で広報を行った。
	学生の参加状況 活動内容： 人数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価改善点	7月からの就職相談員の配置であったため、4年次生の就職がほぼ決まっていたこと、学生への就職相談員配置の周知が不十分であったことなどにより、活動の困難さがあったと思われるが、就職相談員の活動により、就職情報が整理され、就職相談の環境が整ったことが高く評価される。また、平成28年度は県内就職率が49.5%であり、昨年度(32.2%)に比較して大きく向上した。今後は就職対策委員会との連携強化と教員との情報交換、Uターン支援への取り組みを行っていくことが必要である。
次年度計画	継続して就職ミーティングを重ねながら①就職情報室の環境整備②就職情報の収集・提供に関すること③学生の就職相談に関することに取り組んでいくとともに、就職対策委員会への出席、Uターン支援への取り組みも開始していく。
記載責任者	小野美奈子

4-1)-②

事業名	魅力ある大学づくり・人づくり事業:認定看護師等養成事業 認定看護管理者教育課程<サードレベル>開設準備事業
対象	看護職
事業組織	宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（小野、日高、杉田） 県医療薬務課 宮崎県看護協会（境、松浦、中島）
事業計画	目的： 県立看護大学を核として、県内どこでも専門性の高い看護を受けることができる体制づくりを進めるため、認定看護師を養成し、少子高齢化に対応した地域づくりの推進を図る。 実施内容： 県内医療機関に就労している看護師が専門的知識と高度な技術を修得できる認定看護師等教育課程の平成29年度開設に向けて準備を行う。
実施状況及び結果	H.27年8月～9月 ●宮崎県福祉保健部医療薬務課看護担当が調査主体となり、県内140か所の病院に対して、「認定看護師養成に関するアンケート」を実施。87の病院から回答を得、回収率は62.1%であった。その結果、認定看護管理者教育課程<サードレベル>の開講へのニーズが高いことが確認でき、平成29年開講を目指して準備することを決定した。 10月～11月 ●熊本県立大学認定看護管理者教育課程<サードレベル>を視察するとともに、他県の状況を情報収集した。 ●日本看護協会、県・宮崎県看護協会と協議し、宮崎県看護協会で実施する<ファーストレベル><セカンドレベル>と連携しながら教育課程を運営する方向性を決定した。 12月～H.28年3月 ●認定看護管理者企画準備委員会を組織し、3月までに8回委員会を開催し、教育課程申請に向けて以下の準備を進めた。必要時日本看護協会の助言を受けた。 ・規則・細則の整備、専任教員・非常勤講師の内諾、カリキュラム・シラバス作成、開講期間・受講料・募集要項の確定、学習要項の作成等 ●本学看護研究・研修センターにおける認定看護管理者教育課程<サードレベル>は、定員は15名、教育期間は、H29.10月～2月の34日間（金、土、日の週末開講）の分散型で実施することを目指し、3月29日にオンラインによる申請情報提出を行った。
	学生の参加状況 活動内容： 人数：実人数（0）人 延人数（0）人
評価改善点	半年間の準備を経て認定看護管理者教育課程サードレベルの教育機関認定審査の書類を提出することができた。準備期間は短かったが、感染管理認定看護師教育課程開設準備の経験や、宮崎県看護協会との連携が円滑に図れたことにより、準備が円滑に進んだ。今後も日本看護協会、県、宮崎県看護協会との連携をはかりながら準備に取り組む。
次年度計画	日本看護協会による今後の審査スケジュールは、4月～5月申請情報の点検、6月～7月制度委員会での審査、8月～9月結果通知となっている。今後も月1回認定看護管理者企画準備委員会を開催しながら、日本看護協会からの指摘への対応及び開設準備を行う。
記載責任者	小野美奈子

4-1)-③

事業名	魅力ある大学づくり・人づくり事業：地域志向の看護力を備えた訪問看護師養成事業 「地域志向の看護力育成事業」
対象	看護職 等
事業組織	宮崎県医療薬務課、宮崎県看護協会 宮崎県ナースセンター、宮崎県立看護大学看護研究・研修センター 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（小野、川原、杉田、日高、河野） 宮崎県医療薬務課（坂本）・介護長寿課（渡邊）、宮崎県ナースセンター（松元、佐伯、田原）、県内訪問看護ステーション（和田、那須、荒川、黒木、岩村、岩満、野口）、宮崎県立病院（橋口）、宮崎市立田野病院（三輪）、竹内病院医療連携室（長友）、高原則立地域包括支援センター（中村）
事業計画	目的： 宮崎県の看護職の地域を志向した看護力の現状と課題、および地域特性とニーズをふまえ、地域志向看護教育プログラムの開発、および訪問看護ステーションの機能強化を図ることにより、地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師を育成する。
	実施内容： 1) 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会等の設置 2) 「地域志向の看護力」に関する現状分析 3) 地域志向看護教育プログラム開発 4) 訪問看護ステーション機能強化
実施状況及び結果	従来、県、宮崎県看護協会が実施してきた訪問看護師養成をさらに発展させるために、本学において新規事業として取組んだ。 1) 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会等の設置 関係機関が協働しながら、地域を志向し地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師を育成することを目的とし、平成 28 年 1 月に宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会を設置した。また、本委員会に「地域志向看護教育プログラム開発と検証」「訪問看護ステーション機能強化」の 2 専門委員会を設置した。 2) 「地域志向の看護力」に関する現状分析 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会において、現状分析のための情報交換を行った。また、本事業展開に必要な訪問看護ステーション等の社会資源について情報整理を行った。 3) 地域志向看護教育プログラム開発 平成 27 年 11 月に宮崎県訪問看護人財育成プログラム委員会(事務局:宮崎県看護協会)が作成した「宮崎県訪問看護師養成研修体系」をもとに、宮崎県看護協会 宮崎県ナースセンターと宮崎県立看護大学看護研究・研修センターの役割を明確化した。新人研修及び新人研修の導入となるコアカリキュラムを本学が担当することとなり、平成 29 年度実施に向けてプログラムを作成した。 4) 訪問看護ステーション機能強化 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会に設置した訪問看護ステーション機能強化専門委員会で、現状や課題について意見交換を行った。小規模の事業者が多く運営面や人材育成への課題があること、また、新規参入事業所が増加しているものの医療依存度の高い対象や看取りへの対応について課題があることがわかった。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ ）人 延人数（ ）人

<p>評価 改善点</p>	<p>「宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会」を設置し、今後の事業運営のための組織体制を整備することができた。年度後半になってからの事業運営となり、「地域志向の看護力」に関する現状分析は情報収集にとどまった。宮崎県訪問看護師養成研修体系をもとに実質的な訪問看護師養成が図れるよう、さらに、県、県看護協会・県ナースセンターとの協議が必要である。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>1) 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会等の開催 2) 「地域志向の看護力」に関する現状分析 3) 地域志向看護教育プログラム開発と検証・・・①既存プログラムの検証 ②新卒訪問看護師養成プログラム開発 4) 訪問看護ステーション機能強化・・・①地域や訪問看護ステーションの現状分析より、機能強化のための対策の検討 ②運営強化、人材育成のための研修等の開催</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>川原 瑞代</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>「宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会」を設置し、今後の事業運営のための組織体制を整備することができた。年度後半になってからの事業運営となり、「地域志向の看護力」に関する現状分析は情報収集にとどまった。宮崎県訪問看護師養成研修体系をもとに実質的な訪問看護師養成が図れるよう、さらに、県、県看護協会・県ナースセンターとの協議が必要である。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>1) 宮崎県地域志向の看護力育成推進委員会等の開催 2) 「地域志向の看護力」に関する現状分析 3) 地域志向看護教育プログラム開発と検証・・・①既存プログラムの検証 ②新卒訪問看護師養成プログラム開発 4) 訪問看護ステーション機能強化・・・①地域や訪問看護ステーションの現状分析より、機能強化のための対策の検討 ②運営強化、人材育成のための研修等の開催</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>川原 瑞代</p>